

(5) 研究開発単位V (英語によるコミュニケーション力を向上させるプログラム開発)

① English Café (通年)

1) 目的

英語はグローバルな社会においてコミュニケーションを図るために重要なツールの一つとして認識させ、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲や技能を向上させる。

2) 期待される成果

大学の先生や留学生と楽しみながら英語で会話したり、意見交換することで、コミュニケーション能力が向上する。また、課題研究の発表会において英語による発表能力が向上する。

3) 内容

英語部の生徒を中心に長崎大学経済学部を訪問し、大学の先生方や留学生と英語を通じた交流を行う。具体的には以下のとおりである。

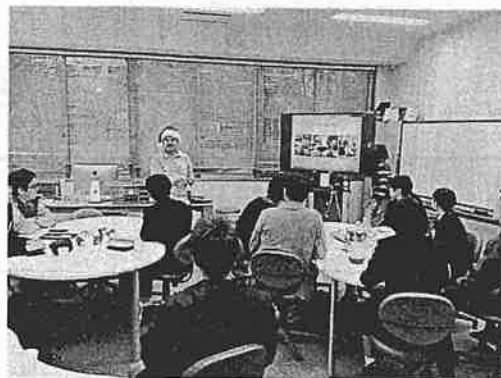
5月24日(金)	アメリカの大学入試についてー日本とアメリカの違いー
7月19日(金)	未来の「食」についてー地球温暖化との関連ー
10月28日(月)	ハロウィーンについてー日本とアメリカの違いー
12月20日(金)	クリスマスについてー日本とアメリカの違いー

～長崎大学経済学部HPより～

経済学部では、今年度4回目となる長崎東高校英語クラブとの交流イベントである English Cafe を12月20日に開催しました。今回は、『クリスマス』をテーマに、長崎東高校から生徒11名と教員2名の他、本学部学生5名が参加しました。

今回は、言語教育研究センターのトム准教授から、クリスマスにちなんでアメリカでのクリスマスカードを贈る習慣についての紹介がありました。参加者は、友人、家族そして同僚にクリスマスカードを送ることがアメリカの伝統であるとの話を聞いた後、実際にクリスマスカードを作成しました。

English Cafe は、高大連携事業の一環として、平成27年度より長崎東高校の生徒を招待し、本学部学生とアメリカの文化に触れ、英語でコミュニケーションを行っています。本学部や長崎東高校に在籍している留学生や外国語指導助手(ALT)が参加し、アメリカだけでなく、他の国々の文化についても学ぶことができる交流の機会となっています。



4) 成果

English Café は、長崎大学経済学部のトム・デジ 准教授が中心となって継続的に行われている英語表現及び国際交流活動である。本校からは毎年英語部が参加し、留学生との交流や日本文化等を英語で紹介する活動を行っている。この取組への生徒たちの関心は高く、異文化交流への垣根は確実に低くなっており、グローバル社会を生きるために不可欠な多様性に対応する柔軟な姿勢は確実に育まれていると思われる。

参加した生徒の GTEC スコアを見てみると、2年生(6名)の平均トータルスコア(4技能版 Advanced)は966.5(CEFR B1相当)、1年生(8名)の平均トータルスコア(4技能版 Basic)は943.1(CEFR A2相当)である。これらの数値からも、English Café のような取組は、生徒の英語力を育成するうえでは大変有意義なものであると言える。

② 時事英語（高2国際科）での四技能の育成

1) 目的

国際社会で活躍できる人材の育成のために、生徒により広い視点で世界に目を向けることができるように、時事的な話題について英語で情報を収集し、自分の考えをまとめ、それをディスカッションあるいはプレゼンテーションを行う。これらの活動を通して、批判的思考力や協働する力といったいわゆる「21世紀型学力」を身につけると同時に、英語で情報等を発信する力を養う。

2) 期待される成果

国際情勢に関する内容を理解した上で、自分の意見を持ち、日本という立場や所属する社会の一員として何ができるのかを生徒一人ひとりが自覚し、意見や解決策について明確に伝えようとする態度を養うことができる。

3) 内容

2単位（週2時間）の授業構成は次のとおりである。

○第1時間目

教師により提示された3つ程度の時事的な問題に関する動画を最低3回視聴する。

「3回視聴」の意味は次のとおりである。

視聴1：概要を把握する。この視聴では、生徒は途中で動画を止めることなく、全体像をつかむことが要求される。

視聴2：動画の中で使われていた英語の表現に注目する。この視聴では、理解が困難な部分は繰り返し再生し、理解することが求められている。

視聴3：視聴1、2で学んだ内容を統合させて理解を深め、第2時間目の活動に備えることが求められている。

最低3回視聴し学んできた内容について、以下の点について口頭でディスカッションする。

- ・動画から学んだ新たな情報
- ・興味を引かれたこと
- ・動画の内容についての感想や意見
- ・動画の内容について教師から発せられた問いに対する解答
- ・動画視聴時に見つけた新出或いは困難な表現の文脈上の解釈

○第2時間目

第1時間目と同様の活動を、文字によるテキストを用いて行う。使用するテキストは、BBC、Japan Times、CNNといった世界各地のニュースを英語で扱っているものを使用し、複数提示される内容のうちの一つは、使用している教材『NEWSBREAKS』に掲載されているものとしている。



4) その他の活動

①模擬国連事前研修

「Reducing Child Mortality(乳幼児死亡率の削減)」というテーマについて、担当国の代表としての知見を深め、課題を理解した上で、オープニングスピーチの原稿(90秒)を作成し、解決策を提案した。修学旅行(11月下旬)中に、シンガポール国立大学において、現地の大学生を交えて模擬国連に臨んだ。

②最終プロジェクト

2～4人の小グループで、自分たちが選んだテーマについてのプレゼンテーションを英語で行う。テーマは高校生として学習するのに特に支障がない限りは、どんなテーマでも認めている。プレゼンテーションでは、パワーポイントのような視覚情報を提供することを課しているが、視覚情報はあくまでも補助的なものという位置づけで、プレゼンテーションの中核は生徒一人につき最低2分間の口頭による発表としている。従って、視覚情報を示す場合には、以下の条件を付している。

- ・スライドは10枚を超えない

- ・ 1つのスライドに提示する語は10語まで
- ・ 1つのスライドに画像は2つまで
- ・ 凝ったフォントやアニメーションは使用しない

このプロジェクトの目的は、聴衆に対して自分たちが伝えたいことを効果的に伝え、意見交換をすることにある。一方的に伝えるスピーチではない。従って、キーワードを記したカード等のプロンプトを除けば、原稿を作ることは認められていない。

5) スカイプによるアカデミックスピーチトレーニングについて

本年度は、過去3年間指導していただいたコンコーディア大学のMike Barcomb先生(専門は教育工学、応用言語学)が研究活動多忙のため、実施できなかった。Mike先生からは、2020年6月頃実施可能との連絡を受けている。

③模擬国連

1) 目的

国際社会で活躍できる人材の育成のために、生徒により広い視点で世界に目を向けることができるようにさせること、また英語はグローバルな社会においてコミュニケーションを測るために重要なツールのひとつであると認識させ、意欲や技能を向上させる。

2) 期待される成果

国際情勢に興味を抱くようになり、日本のみならず海外にも視野を向けるようになる。また、協議の内容を理解した上で、それぞれの国の立場に立ち、その国の発展のために何ができるのかを考え、主張を述べた上で、政策について交渉することができるようになる。

3) 内容

11月21日(木)22日(金)高校2年生国際科国際科80名がアジアでの大学ランキング1位と高い評価を受けるシンガポール国立大学(NUS)にて、模擬国連を実施した。国際科の生徒は時事英語の時間の中で、10月から約10時間の事前準備の研修を重ねた。模擬国連の概要や担当国についての理解を深め、その国の立場的役割を踏まえながら、模擬国連の議題に対する政策を作成した。それぞれの政策を他国の代表と共有し、成果文章として提出した上で、折衷案としての決議案を作成した。

初日は、約1時間、平和班(4班24名)、医療班(7班35名)、水班(4班17名)がそれぞれ会場に分かれ、NUSの学生に対して英語によるSGH課題研究の経過報告をした。学生からは質問や助言をいただいた。2日目は、4グループに分かれ、アフガニスタン、スイス、アメリカ、フランス、中国、日本、ブラジル、南アフリカ、パキスタン、ソマリアの10カ国の大使となり、NUSの学生からなるインド、インドネシアと共に12カ国で、Reducing Child Mortality(子どもの死亡率を低減する)という議題について議論を戦わせた。自国の立場にたった意見を英語で主張し、多くの国の大使と交渉・意見調整を行った。模擬国連を運営するNUSの学生が議長を務め、決議案の策定までの討議が円滑進むように、わかりやすい説明を補足してサポートしてくれた。

4) 成果

模擬国連の経験を通して生徒は多くの成果を得ることができた。第一に、他国に興味を抱くようになった。事前に担当国の経済や政治、教育など様々な背景を調べ、Reducing Child Mortality(子どもの死亡率を低減する)という議題において、様々な側面から総合的に担当国の状況を分析できた。解決に向けてその国が他国を支援する立場か、支援を受ける立場かを認識し、解決案となる政策を作成できた。次に、国際情勢について関心を向けるようになった。国際社会の諸問題の解決に向け、諸国が行動を調和しながら協力していくためにどの国と何をすべきかと、多角的な視点で考えるようになった。最後に、英語によるコミュニケーション力を向上させたいという意欲が高まった。模擬国連の基本ルールに基づいて、お互いの国の主張が決議案に反映されるように、相互理解に努めながら、協力して交渉・意見調整を英語で行うことは生徒にとって難しいものであったが、生徒からは「他国と英語で交渉し、お互いの利害が考えられた協力関係を築くことができた時の達成感は今でも覚えています。」と達成感に満ちあふれた声を聞くことができた。



参加した生徒の感想

- ・急に来る質問に頭をフル回転させて考えた。先生の英語が聞き取りやすくとても助かったが、自分のリスニング力と語彙力の未熟さを改めて感じた。
- ・国の代表として、ペアで一生懸命どうすべきか考えて、皆の前で原稿なしにスピーチできたのは、私にとって少しの自信になった。
- ・私はパキスタンという発展途上国の代表として支援を要求する立場にありましたが、見返りとして提供する資源が乏しく、結果的に支援を受ける協定を結ぶことができなかった。その過程で、小国パキスタンの置かれている厳しい状況がより深く理解でき、また、問題点を考える中でその国の課題についての思慮を深めることができた。私が社会に出て他人と折り合いをつけて課題解決に臨もうという時には、この経験を活かしたい。
- ・参加したくないと思うほど、初めはついていけなかった。しかしNUSの学生の方がサポート役としてわからないところを詳しく説明してくれたおかげで、質問や議論の際に手を挙げ、意見を述べることができるようになった。自ら進んで発言できるようになるとは思わなかったので、新しい自分との出会いだと感じた。

④スピーキングテストの実施（高校全生徒対象）

1) 目的

普段の授業で取り組んでいるコミュニケーション活動で培っている技能のうちスピーキング力を測定する。また、本テストを実施することで、英語はグローバルな社会においてコミュニケーションを図るために重要なツールの一つであることを認識させ、英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲や技能を向上させる。

2) 期待される成果

英語科教員、米国人講師、ALT、米国大学生インターンとの1対1でのスピーキングテストにより、コミュニケーション能力の向上や英語を用いることへの喜びを感じる事が期待される。

3) 方法・内容

県教委が作成した英文を用いて、1対1のインタビューテストを行う。まず、カードに記載されている英文を音読し、その後3題質問される。カードの英文から2題質問され、もう1題は自分の意見を述べる問題が出題される。テーマは、日常生活から環境問題に至るまで様々であり、ルーブリックにより評価を行う。

4) 成果

今回のスピーキングテストを含め、授業中の英語を用いたスピーキング活動（リテリング、プレゼンテーション、ディスカッション等）を通して、スピーキングの能力が向上している。

GTECスピーキングテスト（高1）	平均スコア	平均CEFR
6月	197.4	A2.1
12月	251.2	A2.2

GTECスピーキングテスト（高2）	平均スコア	平均CEFR
6月	214.7	A2.1
12月	251.5	A2.2

⑤ GTEC スコアの変遷

【高2】

高校2年生の、GTEC (Advanced、4技能) スコアの1年間の推移は下表のとおりである。全体的に伸びているが、中でも国際科生徒の伸びは顕著である。これは、英語母語話者による授業(時事英語)やアクティブラーニングを取り入れた他の英語科の授業での取組に加え、国際科生徒が取り組んできたSGH研究活動が大きく貢献していると考えられる。高校2年生でのSGH活動(GSII)においては、研究成果を発表するプレゼンテーション及びレポートについては、英語で発表やまとめを行うことを課している。その中でも、ベトナムフィールドワーク(ベトナムFW)をはじめ、海外での研修に参加した生徒の英語力は、高校1年生の時点ですでに高かったものの、高校2年次においてさらにスコアを伸ばしていることがわかる。英語を使って研究内容を発信するというゴールが明確になっており、そのゴールに向けた生徒の努力の結果がスコアの伸びとなって現れていると考えられる。

Advanced、4技能トータルスコア(2019年12月の全国平均スコアは771)

	2018年12月		2019年12月	差
学年全体	732.8	→	884.2	+151.4
普通科	705.1	→	846.6	+141.5
国際科	799.6	→	971.8	+172.2

国際科で海外研修に参加した生徒のGTECスコアの変遷

研修名(参加者数)	2018年12月		2019年12月	差
全体	839.7	→	1007.9	+168.2
ベトナムFW(12)	830.3	→	997.3	+167.0
ベラルーシ(5)	852.8	→	1028.4	+175.6
トビタテ!(2)	869.5	→	1084.0	+214.5
シンガポール(1)	827.0	→	879.0	+52.0

ベトナム：ベトナムフィールドワーク

ベラルーシ：日本・ベラルーシ友好派遣団2019

トビタテ!：トビタテ!留学JAPAN

シンガポール：長崎県教育委員会主催高校生シンガポール英語研修

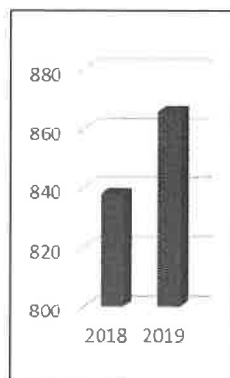
GTECスコアについて

2018年12月実施のGTECスコアは、3技能670点(R:250 L:250 W:170)+スピーキング320点(計990点)で算出されているが、2019年12月実施のGTECスコアは、4技能1280点(各技能320点)で算出されている。

【高1】

(ア) 12月実施回における過年度(現2年生)との比較

	2018	2019	伸び
Total	837.8	865.6	27.8
Reading	173.8	184	10.2
Listening	193.9	194.6	0.7
Writing	223.9	235.9	12.0
Speaking	246.2	251.2	5.0



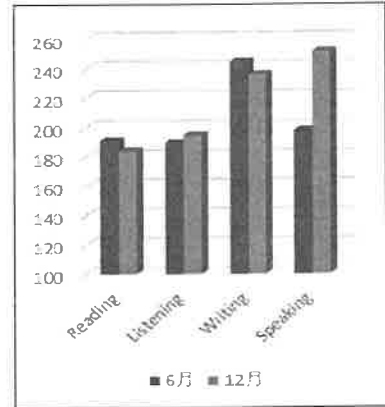
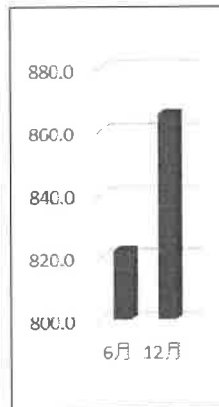
前年度生との比較においては、4技能全てにおいてスコアの上昇が見られた。このことは、

研究開発単位V（英語によるコミュニケーション能力を向上させるプログラム開発）の一環として、コミュニケーション英語Iの授業でリテリング（教科書の内容を英語で相手に伝える活動）や英語要約にすべてのレッスンで取り組んだことによるものと考察する。また、研究開発単位IVに係る「論理」をテーマとしたアクティブラーニング型授業の一環として、論理的な段落構成およびディスカッションに取り組んだ結果、ライティング力が向上したと考える。加えて、英語表現Iの授業におけるエッセイライティング活動の効果も高いと考えられる。

(イ) 同一学年における6月と12月のスコア比較

6月がBasicタイプでの受検、12月はAdvancedタイプでの受検であるため単純な比較はできないが、Speakingの数値の上昇が顕著であることは明らかである。

	6月 Basic	12月 Advanced	伸び
Total	822.0	865.6	43.6
Reading	190.8	184	-6.8
Listening	189.4	194.6	5.2
Writing	244.3	235.9	-8.4
Speaking	197.4	251.2	53.8



(6) その他

①先進校視察と学校訪問の受入

・先進校視察【本校から他校へ】

訪問日	職名	氏名	学校名	目的
7/30(火) ～8/1(木)	教諭	横山 徹	立命館宇治中学校・高等学校	・高校生 SR サミット (FOCUS) への参加 ※生徒2名が参加
8/5(月)	教諭	楠本 正樹	広島県立広島国泰寺高等学校	・WWLの取組について ・探究活動について
10/21(月)	教頭	岩坪 正裕	静岡県立三島北高等学校	・WWLの取組について ・探究活動について
1/24(金)	教諭	神原 哲郎	長崎県立大村高等学校	・SSH 課題研究中間発表会
1/24(金) ～25(土)	教諭	田中 清	立命館宇治中学校・高等学校	・AL ネットワーク推進会議への参加
2/8(土) ～9(日)	校長 教諭	野田 定延 内田 欣友	静岡県立三島北高等学校	・WWL プレゼンテーション大会への参加 ※生徒4名が参加
2/14(金) ～15(土)	教諭 教諭	一ノ瀬憲二 楠本 正樹	筑波大学附属坂戸高校	・第1回 WWL 研究大会

・学校訪問の受入【他校から本校へ】

訪問日	学校名	人数	目的
8/28(水)	沖縄県立那覇国際高等学校	5名	・SGHの取組について ・総合的な探究の時間の取組について
9/10(火)	鹿児島県立古仁屋高等学校	2名	・課題解決能力を育成する授業及び評価
12/10(火)	岡山県立岡山大安寺中等教育学校	2名	・総合的な探究の時間の取組について
12/12(木)	広島市立舟入高等学校	2名	・総合的な探究の時間の取組について ・SGH指定校としての取組について
2/18(火)	熊本県立宇都中学校・高等学校	4名	・6年間の継続的な教育活動について ・英語教育について ・教育課程について
2/19(水)	種子島中央高等学校	1名	・探究活動について ・教科指導(主体的・対話的で深い学び)について
2/27(木)	西南学院中学校・高等学校	3名	・教育課程について ・学習意欲の向上について

②国際交流事業

本校では、毎年春休みに、高校1年生と中学2年生の希望者を対象に、本校職員が引率を行い、海外語学研修と国内語学研修を実施している。

(1) 海外語学研修

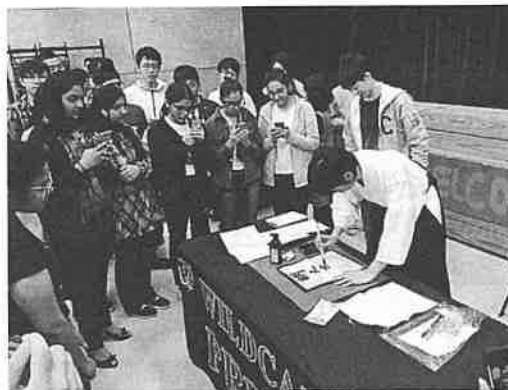
派遣先：カナダ（バンクーバー市、サレー市）

派遣期間：平成31年3月24日（日）～平成31年3月31日（日）7泊8日

参加生徒：高校生50名（男子20名、女子30名）

中学生29名（男子12名、女子17名）

合計79名



(2) 国内語学研修

派遣先：ハウステンボス

派遣期間：平成31年3月26日（火）～平成31年3月28日（木）2泊3日

参加生徒：高校生 57名（男子33名、女子24名）

中学生 60名（男子31名、女子29名）

合計117名



③その他の研修

(1) トビタテ！留学 JAPAN 日本代表プログラム

主催：文部科学省官民協働留学創出プロジェクトチーム

学年・組・出席番号	氏名	派遣先・派遣期間・分野
1324	金巻 凜	イギリス (ケンブリッジ) 7月28日 (日) ~ 8月11日 (日) テイクオフ分野
2615	岩崎玲香	南アフリカ (ケープタウン) 7月13日 (土) ~ 8月11日 (日) 国際ボランティア (教育) 分野
2617	金子美奈	オーストラリア (ブリスベン) 7月20日 (土) ~ 8月9日 (金) テイクオフ分野

(2) 令和元年度高校生のシンガポール英語研修

主催：長崎県教育委員会

学年・組・出席番号	氏名	派遣先・派遣期間
2728	浦田千冬	シンガポール 7月26日 (金) ~ 8月5日 (月)

(3) 令和元年度高校生の釜山韓国語研修

主催：長崎県教育委員会

学年・組・出席番号	氏名	派遣先・派遣期間
2139	松尾萌々香	釜山 7月22日 (月) ~ 8月3日 (土)

(4) 日本・ベラルーシ友好派遣団 2019

主催：一般社団法人スーパーネスンスアカデミック

学年・組・出席番号	氏名	派遣先・派遣期間
2607 2623 2630 2633 2707	中山浩思 田川瑞希 藤谷朋子 峯本麻衣 木山慈斗	ベラルーシ (ズブリョノク・ミンスク) 7月24日 (水) ~ 8月4日 (日)

(5) 語学研修

学年・組・出席番号	氏名	派遣先・派遣期間
2619	下田光沙	イギリス (エジンバラ) 7月28日 (日) ~ 8月10日 (土)
3322	有吉夏紀	アメリカ合衆国 (シアトル) 1月22日 (水) ~ 2月28日 (金)